

「なんと、二瀬ダムに戦艦・大和の技術が！？」
～二瀬ダムのゲートのこだわり技術～ (2007.8.10)

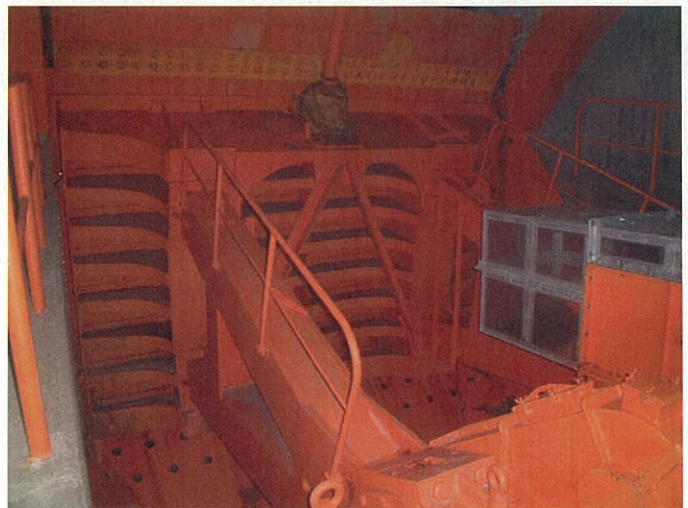
昭和36年に完成した二瀬ダムには、ダムの中央にコンジットゲートと呼ばれるゲートがあります。このゲートは、洪水を調節する時に活躍するゲートで、二瀬ダム上部の道路から約70m下に2門、設置されています。



■この写真は、コンジットゲート2門のうち、左側1門から放流している時のものです。

コンジットゲート1門の大きさは、幅5.0m×高さ3.2mもあります。

このゲートは、国内最初の流量調整可能な大規模高圧ラジアルゲートとして、昭和36年に二瀬ダムに設置されました。当時、設計水深が69mと過去に類を見ないゲートで、あの「戦艦・大和」を建造した(株)呉造船所が当時の技術を結集して製作したゲートです。



■写真：コンジットゲート



■写真：ハッチタイプの扉

この写真は、コンジットゲート操作室にある扉です。コンジットゲートと同様に、(株)呉造船所製の扉であることから、軍艦や貨物船などによく見られるハッチタイプの扉となっています。

この扉には、ゲートからの水しぶきが漏れてこないように、扉のまわりにゴムパッキンが取り付けられています。

このコンジットゲートは、高い水圧の水がゲートから漏れないように、圧着シリンダという機器で、ゲートを上流側に押しつけています。

右の写真は、圧着指示計といい、その押しつけた量を示す計器です。

この計器は、コンジットゲート設備の中で唯一「(株)呉造船所」と明記された状態で残された機器であることから、二瀬ダム管理所では、今後もこの計器については保存していくことにしています。



■写真：圧着指示計